

2025年度

彰栄幼稚園

自己評価・関係者評価報告書

学校法人 彰栄学園
彰 栄 幼 稚 園

2025 年度 彰栄幼稚園 自己評価・関係者評価 報告書

2025 年 3 月 31 日

学校法人 彰 栄 学 園

彰 栄 幼 稚 園

1, 幼稚園の教育目標

- 神に愛されていることを知る
- 健康なからだづくりをする
- 自主性を養う
- 思いやりの心を育てる
- 創造性・独創性を育てる

2, 幼稚園の保育の内容

- 一人ひとりが神に守られ、愛されていることを知るとともに、神や人への感謝の気持ちをもつことを念頭に、週に一度、全園児で礼拝の時間をもつ。
- 教師による個別の子ども理解を通して、子ども同士が相手の心の機微に触れ「思いやり」の気持ちを育む機会を重んじる。そのために相当な時間について、年齢を区分しない自由な遊びの機会として確保する。
- 一人ひとりの子どもの個性を、たくさん子どもたちで受けとめられることを目指す。そのため一人ひとりを認め合うための空間を確保し、集団で取り組むことで得

られる仲間意識を通じて主体的・意欲的な姿勢を育む。

○園内に存在する動植物の成長や変化を日々の生活の中で身近に感じ、生命の大切さ

に触れることにより愛情をもつ。また知的興味や探究心の芽生えを培う。

○表現活動や運動遊びなどを通じて、ことばや音楽及び身体による豊かな表現に親し

むとともに、体幹機能の発達を促す。

3, 今年度の各学年の取り組み

満3歳：

年間目標

○園生活の流れや生活の仕方が分かり、自分の身の回りのことをしようとする。

○体を十分に動かしていろいろな動きのある遊びを楽しみ、心地よさを味わう。

○保育者や友だちに親しみをもち、安心して自分のしたい遊びに取り組む

振り返り

・母子分離に時間がかかる子どももいたが、1年を通して園生活に慣れ、安心して過ごせ

るようになった。その中で、自分のやりたい遊びを見つけて楽しむ姿が見られた。

・身の回りのことも流れの理解とともに、波はありながらも自分でやろうとする意欲が育

っていった。

・特に1学期から2学期初めにかけて、つぼみ組と一緒に過ごした経験が刺激となり、生

活面や遊びの広がりには良い影響を与えたと感じられる。

- ・当初は個々での遊びが中心だったが、3学期末には複数（7人程度）で関わりながら遊ぶ姿が見られ、集団で遊ぶ力や関係性の育ちに成長が感じられた。

年少：

年間目標

- 基本的な生活習慣がわかり、身の回りのことを自分でしようとする
- 人との関わりを通して自分の欲求や思いを自分なりの方法で表現する
- 様々なものに興味関心を持ち、友達と触れ合いながら楽しんで遊ぶ

振り返り

- ・身辺自立の育成を目標とし、個人差は大きかったが、3学期にはそれぞれの発達段階で達成する姿が見られた。
- ・子どもの興味に応じ、「種まき」を意識し自由に選べる遊びの環境を整え、「見る・やったつもり」も含め経験の積み重ねが見られた。
- ・製作は継続的に行うことで成長が確認でき、言葉や表現活動を通して楽しさを感じる姿が育った一方、自然物との関わりには課題が残った。
- ・健康面では生活習慣の声かけの重要性を実感し、人間関係では仲間意識の高まりが見られた。怪我は多かったが適切な対応と保護者の理解が得られた。

年中：

年間目標

○様々な遊びに興味を持ち、自分なりに表現して遊ぶことを楽しむ。

○友だちや保育者との関わりの中で、自分の気持ちを言葉で伝え、相手の気持ちに気付いたり耳を傾けようとする。

○進んで様々な活動に取り組み、みんなと一緒に活動する楽しさを味わう。

振り返り

- ・前半は個々の関わりに意識が偏り、後半は集団を重視しすぎたことで、子ども一人ひとりの楽しさや興味といった姿を十分に捉えきれなかった。
- ・「楽しい」「またやりたい」と思える自由遊びを継続して展開するための環境構成や準備が難しく、不十分であったことが課題として残った。
- ・保育者主導ではなく、子どもに問いかけながら意見を引き出し、自ら選択・決定できる環境づくりを意識して行った結果、3学期には子ども主体で遊びに取り組む姿が増えてきた。
- ・今後は子どもの声に耳を傾け、子どもと一緒に気づきを共有しながら、主体的な遊びを大切にしたい関わりを意識していきたい。

年長：

年間目標

○友だちと相談したり協力したりしながら共通の目的に向かい活動する充実感や達成感を味わう。

○さまざまな場面において、周囲の状況を見ながら考え、行動しようとする

○自分の気持ちを表現し伝え合う心地よさを味わうとともに、保育者や友だちの話をよく聞き、意見を尊重しようとする

振り返り

- ・勝ち負けのある活動に積極的に取り組み、勝つ喜びを認めつつ、担任が負けた時の姿を示すことで、3学期には「次こそは」と前向きに挑戦する姿が増えた。
- ・「友だちと一緒にやってみる」ことを大切に、教え合いやトラブル時の話し合いを支援することで、会話のやり取りで解決しようとする姿が育ってきた。
- ・グループ活動では、1学期から3学期にかけて仲間存在を意識する力が高まり、役割や関係性の深まりが見られた。
- ・「みんなでやりたい」「いないとさみしい」といった気持ちが育ち、集団で楽しむ姿が見られるようになり、集団意識の育ちは達成できたと感じている。

4, 評価項目の達成及び取り組みの状況

幼稚園 学校評価

評価基準

A：十分達成している

B：概ね達成している

C：改善が必要

I 教育課程と保育の計画

評価項目	幼稚園 評価	改善点	評価委員 評価	評価委員自由記述覧
教育課程は幼児の発達に応じて編成されている	A	引き続き子どもの実態に応じて見直し 継続と発展を目指した計画を検討。	A	子どもの発達に合わせて遊びや生活を無理なく成長できるように考えられていると思う。 園児一人一人の成長の度合いが異なるため集団と個別指導のバランスの図り方が工夫されている印象を受ける。
年間指導計画・月案・週案が連携している	B	子どもの成長発達の実態把握を含め職員間での共有をさらに強化する。	A	子どもたちの育ちには現状に即した改善が大切。型にはまり過ぎない枠作りを期待する。 年間の流れの中で、月ごと週ごとの予定が分かりやすく整理されているので仕事を持つ保護者にも把握しやすい。 ICTの活用など合理的な情報共有方法の検討を期待。

季節や地域の特色を取り入れた活動	A	地域行事との連携を増やす	A	長年、地域との連携が薄い印象がある。 キリスト教主義の特性を生かし、周辺地域の方々からの理解を感じる。
------------------	---	--------------	---	--

II 教育の質の向上

評価項目	幼稚園評価	改善点	評価委員評価	評価委員自由記述覧
遊びを中心とした保育が実践されている	A	子どもの主体性をさらに重視しつつ、遊びの継続と発展を目指す	A	非認知的思考が形成される遊びの展開が見られ、子どもの成長を読み取ることができる。
教職員の研修参加	B	非常勤職員も参加できる園内研修を増やす	B	専門学校の教員にも研修が担当できる教員がいるので活用を期待する。
保育の振り返り	B	定期的な保育カンファレンスを実施	B	現状でも可能な限り取り組んでいる印象があるが更なる充実を期待する。 カンファレンスで炙り出された課題は、どのように解消されているかが知りたい。

Ⅲ 教職員体制の充実

評価項目	幼稚園 評価	改善点	評価委員 評価	評価委員自由記述覧
職員間の連携	B	非常勤職員を含め情報共有の時間を確保	B	多様化する雇用条件を業務にマッチングさせるのは難しい局面にあると思う。
職員会議の実施	A	継続して実施	A	充実がみられる。
新任教員への指導	B	不安等のヒアリングを行い指導体制を強化	A	とても重要なことなので力を割いて取り組んでほしい。 OJTも大切だが、新任の先生がリフレッシュできるような配慮が必要。

Ⅳ 安全・衛生面の管理

評価項目	幼稚園 評価	改善点	評価委員 評価	評価委員自由記述覧
園内安全点検	A	定期点検を継続	A	避難経路の動線上に危険因子の確認を願う。
避難訓練	A	更に様々な災害を想定しての実施 (地震からの火事など)	A	自然災害や不審者の対応等も含めきめ細やかに行われている。

衛生管理	B	感染症対策の強化外 遊び後や食前の手洗 いに加えて、食後、 遊びの切り替え時の 手洗いの推奨	A	基本的な手洗いの習慣化の継続 に期待する。 救護室や観察室などの水際対策 の設備の必要性を感じる。
------	---	--	---	--

V 学級経営と保育活動

評価項目	幼稚園評 価	改善点	評価委員 評価	評価委員自由記述覧
学級の雰囲気 づくり	A	多様な子どもの安心 感を重視	A	子ども一人ひとりへの配慮が行 き届いている。
子どもの個性 を尊重した指 導	B	個別支援の充実と集 団としての思いやり や関わりの楽しさを つたえる	B	大変難しいことなので、継続し て向き合ってほしい。 支援が必要な園児への配慮の必 要性を感じる。
行事活動	A	子ども主体の活動を 増やす	A	一つ一つよく練られている。

VI 保護者連携

評価項目	幼稚園 評価	改善点	評価委員 評価	評価委員自由記述覧
保護者とのコミュニケーション	B	連絡方法の工夫	B	<p>預かり保育利用保護者への、その日のクラスの報告共有があるとさらに安心して利用しやすい。</p> <p>SNSでのツールに頼り過ぎてしまうと、コミュニケーションが希薄になる傾向がある心の通わせ方に工夫が必要。</p>
園だより・情報発信	B	HPのブログに加えて写真や活動報告を増やす	B	<p>行事だけでなく普段の保育の様子も写真等の発信があると成長や園での生活の様子がわかりやすい。</p> <p>優先順位としては、現状で十分と考える。</p> <p>情報の共有はドキュメント形式が伝わりやすく馴染みやすい。ただし個人情報の管理やリテラシーなどの問題に配慮が必要。</p>
保護者参加行事	A	子どもが主体的に参加でき、子どもとの楽しい時間や経験の共有が親子でできる行事を今後も継続実施	A	<p>行事ごとにコンセプトがあり、子どもの遊びへのアプローチもレクチャリングされると、より子どもの成長過程を感じ取れるのではないかと思う。</p>

VII 養成校との連携

評価項目	幼稚園評価	改善点	評価委員評価	評価委員自由記述覧
実習生の受け入れ	A	指導内容の充実	A	丁寧に指導くださり感謝。昨今の幼稚園への就職離れが目立つので、幼児教育の素晴らしさが十分に学生に知って欲しい。
実習指導	B	振り返りの機会を増やし、学生の声に寄り添う	B	可能な限り時間をとることを希望する。 お忙しいと思いますが、振り返りの時間が大切だと思う。
養成校との情報共有	B	定期的な連絡	B	コロナ以来、頓挫しており、再開したい。

5, 総合的な評価（自己評価）

本園では、子ども一人ひとりの発達に応じた保育を大切にし、主体的に遊びや活動に取り組む姿が多く見られるなど、教育・保育の質は概ね良好である。教職員間の連携も円滑であり、安全面への配慮も適切に行われている点は評価できる。

一方で、長時間保育を行う中で保護者への情報発信の方法や内容、ならびに保護者との連携については改善の余地があり、また指導計画の見直しや職員間の情報共有の強化も課題として挙げられる。

今後は、保護者とのコミュニケーションの充実を図るとともに、非常勤職員を含めた職員研修の充実や組織的な情報共有体制の強化を通して、保育の質のさらなる向上に努めていく必要がある。

6、学校関係者評価委員による評価および次年度に向けた課題について

保護者に寄り添いながら連携を図ること、また後進を育てていくことは、常に難しさを伴う重要な課題であると感じています。今後とも、感謝の気持ちを大切に、それを伝えていける園の教育を応援しております。

今後の園のあり方や保育内容については、発展的なビジョンを基盤に、中長期的な視点から計画的に検討・実践していくことが望まれます。また、自然災害への対策として、隣接する専門学校との連携を生かし、合同訓練の実施など防災体制の強化を図ることも有効と考えます。

働く保護者にとって通わせやすく、安心して預けられる環境が整っていると感じています。単なる託児ではなく、子ども一人ひとりに丁寧に関わり、それぞれを大切に関わってくださっていることが伝わってきます。また、季節の行事や日々の活動も大切にされており、子どもたちが豊かな経験を積めることを大変ありがたく思っています。

さらに、子ども同士や保護者間で課題が生じた際にも、教育者として冷静かつ適切に対応し、より良い解決へ導いてくださっている点に、深い信頼を感じています。

【学識経験者】

学校法人彰栄学園 理事・評議員
保育福祉専門学校長

吉澤 猛

【地域・卒園児保護者】

文京区立小学校 PTA 連合会 副会長
精神保健福祉士 保育士

長友建太郎

【地域・幼稚園保護者】

年長みどり組
文京区私立幼稚園 PTA 連合会 常任委員

山口 明日香

【彰栄幼稚園】

学校法人彰栄学園 理事長
彰栄幼稚園園長

大矢 和男

学校法人彰栄学園 理事・評議員
彰栄幼稚園園長補佐

津村 利治

学校法人彰栄学園 評議員
彰栄幼稚園教頭

田中なな子